

# 多すぎです!! 在日米軍基地

日本に駐留している米軍兵士は51,794人で、世界第2位です。米軍は世界14か国に駐留していますが、多くの国では50人以下で、1万人以上が駐留している国は3か国しかありません。

日本の米軍基地は面積で世界第3位、数で第2位、資産価値で第1位です。米軍が海外に保有する最も高価な基地は沖縄県の嘉手納基地です。

日本が負担している米軍の駐留経費は44億1134万ドルで、世界第1位です。この中には基地の土地代、水道や電気の料金、家族住宅や娯楽施設の建設費用も含まれています。他の国と比べても、日本の負担は多すぎではないでしょうか。



## 駐留米軍の数は世界第2位

受け入れ国	米軍兵士の数
ドイツ	54,043人
日本	51,794人
韓国	26,339人
イギリス	9,398人
イタリア	9,219人

\* 韓国は08年  
他は09年の  
データ

## 基地面積は世界第3位

受け入れ国	基地面積(エーカー)	基地数	資産価値
グリーンランド	233,034	1	25億 8260万 ドル
ドイツ	147,824	137	377億 3480万 ドル
日本	126,828	123	405億 9350万 ドル
韓国	32,435	87	135億 7350万 ドル
オーストラリア	20,078	6	3億 6510万 ドル
イギリス	8,376	69	60億 6660万 ドル
イタリア	5,615	83	66億 6790万 ドル
海外総計	634,919	716	1242億 2520万 ドル

## 駐留経費負担は世界第1位

受け入れ国	負担割合
日本	44億 1134万 ドル
ドイツ	5億 6392万 ドル
韓国	8億 4311万 ドル
イタリア	3億 6655万 ドル
イギリス	2億 3846万 ドル
同盟国総計	83億 9716万 ドル

「基地問題で米国の言うことを聞かないと日米関係が危うくなる」という人や、「海兵隊がいなくなると、抑止力が無くなる」という人がいます。本当にそうでしょうか。米軍に対する負担では日本は世界有数です。日本の協力がなければ、米軍はアジアに存在することもできません。

私たちは、米軍の駐留や抑止力を認めるものではありません。しかし、仮に日米同盟や抑止力が必要という立場に立ったとしても、普天間基地の閉鎖は日米関係を危うくする大問題とはなりません。

沖縄県の人たちが、戦後60年間にわたって受けた基地被害を考えれば、普天間基地は一刻も早く閉鎖するべきです。代わりの基地を作るべきではありません。



連絡先

# 普天間基地はアメリカへ 県内移設に反対します。

## いつまで沖縄に基地を押し付けるのですか？

沖縄県にある米軍普天間基地の移設問題が、新聞やテレビをにぎわせています。自民党政権時代の1996年、日米政府は普天間基地の返還で合意しました。しかしそれは、名護市の辺野古に基地を移設することが条件だったのです。この決定に沖縄県民は怒り、様々な反対運動が行われて、政府は基地建設を行うことができませんでした。

昨年8月の総選挙で、鳩山内閣が誕生しました。以前から沖縄の基地問題に理解があった鳩山首相は、辺野古移転の見直しを表明しました。しかしこの決定に米国政府は強く反発しました。また日本国内では、米国の意を受けた評論家たちが「鳩山首相では日米関係が危ない」と騒ぎ立て、基地建設で利益を得るはずだった企業・政治家・官僚たちも抵抗しました。その結果、鳩山内閣は移設先を県内に求める検討作業を始めてしまったのです。現在は名護市辺野古に近い海兵隊のキャンプ・シュワブと、うるま市にある海軍ホワイト・ビーチの沖合いの名前があがっています。

## 鳩山さん、「最低でも県外」は選挙公約ですよ！

鳩山内閣には普天間基地の移設先について、3つの選択肢があります。海外、国内で沖縄県外、沖縄県内で辺野古以外です。海外では米国領グアム島が最も有力な選択です。日本国内では自衛隊の演習場がある地域が候補にあがりました。

しかし日本政府は、「グアムでは米国が納得しない」「日本国内では、その地域の議会や住民の合意が得られない」と消極的です。それでは沖縄県では、辺野古以外であれば議会や住民の合意を得られるのでしょうか。それはありません。合意を得られないのは、県外も県内も同じなのです。

総選挙に際して鳩山さんは移設先は「最低でも県外」と訴えました。市民の期待を背負ってできた内閣です。約束は守ってくださいね！鳩山さん。



海兵隊普天間基地

普天間基地は、在日米軍のうちの海兵隊が保有する飛行場です。ヘリコプターや空中給油機など約50機が駐留しています。普天間基地があるのは沖縄県中部の宜野湾市です。基地は市の中にあり、市面積の約25パーセントを占めています。そのため住民は基地の周囲に、ドーナツ状に居住しています。また交通網は遮断され、公共施設の整備にも支障をきたしてきました。

普天間基地のヘリコプターは、離陸・旋回・着陸を繰り返す「タッチ・アンド・ゴー」の訓練を、1日に150回から300回も行います。ひどい時には民家の上空を、30秒おきにヘリコプターが通過するのです。また訓練は、早朝や深夜にも実施されます。日米は1996年に騒音防止協定を結び、住宅密集地・学校・病院の上空では飛行しないこと、夜10時から朝6時までは飛行しないことを決めました。しかし、米軍は約束を守りません。

2004年8月13日には、基地を離陸したヘリコプターが、隣接する沖縄国際大学に墜落する事故も起こりました。宜野湾市の人々は、生命の危険にさらされながら暮らしているのです。